

2024

9月

# 患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 125 号



ささえちゃん

群れ咲いた秋桜が風に揺れる美しい季節となりました。  
今月号は、『薬剤師による入院前面談』のご紹介をいたします。

当院では、平成 26 年から薬剤師が患者サポートセンターに常駐し、予定入院患者に対して、服用薬の確認を行っています。

入院時支援加算を算定する要件の1つに入院前に薬剤の確認を実施することがあります。

## ■ 薬剤師の面談内容

- 1)服用薬の確認(薬剤アレルギー、サプリメント、健康食品等含む)
- 2)服薬管理状況と薬への理解度の確認
- 3)入院当日に服用薬とお薬手帳を持参することの説明
- 4)入院前に休薬指示がある場合は、休薬説明と指導

また、入院前面談において看護師がアセスメントを行っている転倒・転落リスク、せん妄リスクに影響する薬剤の有無についても確認し、看護師と情報を共有しています。

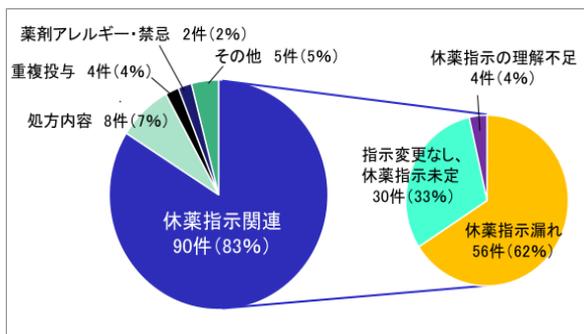
## ■ 休薬指示の確認

当院では抗凝固薬・抗血小板薬、女性ホルモン製剤に関して、術前休薬期間の目安が決められています。出血リスクを伴う手術・検査手技が予定されている場合などは、休薬指示の有無を確認し、疑義照会を行っています。

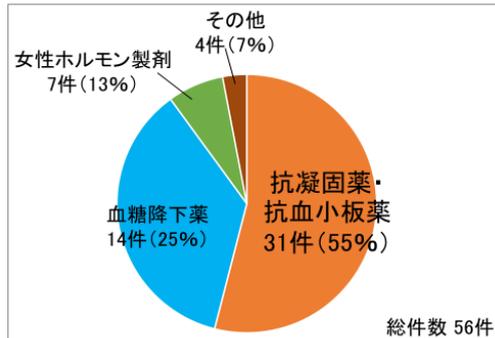
2023 年度の 1 年間に入院前面談を行った 6,775 件中、疑義照会を行ったのは 109 件(1.6%)、そのうち休薬指示に関するものが 90 件でした。疑義照会を行った結果、休薬となった薬剤は、抗凝固薬・抗血小板薬が一番多く半数以上を占めました。

手術や検査等が予定通り実施されるように休薬指示の確認に努めています。

疑義照会の内容 (2023年度)



休薬となった薬剤の種類



## ■ 糖尿病治療薬

SGLT2 阻害薬やメトホルミンでは、ケトアシドーシス、乳酸アシドーシス発現のリスク増加のため、手術前後の休薬が必要とされています。SGLT2 阻害薬では、手術が予定されている場合には、術前 3 日前から休薬し、食事が十分摂取できるようになってから再開となっています（糖尿病治療における SGLT2 阻害薬の適正使用に関する Recommendation、日本糖尿病学会）。

SGLT2 阻害薬やメトホルミンの配合薬も使われるようになってきており、注意が必要です。

## ■ 一般用医薬品、サプリメント、健康食品等

医療用医薬品との相互作用や、手術・検査手技等に影響を及ぼす可能性があるため、原則として入院 1 週間前から中止するよう説明しています。



《注意が必要な一般用医薬品、サプリメントの例》

- セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品  
代謝酵素を誘導することにより、併用薬剤の代謝が亢進され、血漿中濃度が低下する恐れがある
- 納豆菌含有製剤  
ビタミン K を含み、抗凝固作用を減弱する

患者サポートセンターでは、患者さんが安心して入院し、安全な入院生活を送ることができるよう努めています。これからも薬剤師は多職種と協働して、入院前面談を行っていきます。

